

# 夢みるこども 基金だより

15  
NO.イメーシングキョウ  
はシグナルはクン

## 「夢みるこども基金の森」開設

### こどもたちの夢が実現

### 多くのこどもたちにも利用を呼び掛け

「私たちの森ができた!」  
—豊かな緑に包まれた「夢みるこども基金の森」に、こどもたちの歓声が響きわたりました。全国の歯科医院のご

協力をいただき、今年で16回目を迎えた今年の夢みるこども基金のイベントは7月31日、8月1日の両日、唐津市、佐賀市三瀬村と福岡市などで開かれました。

今年は「共に生きる社会のために」命(いのち)の現場をみつめてをテーマに、アグネス理事を囲んで福岡市天神中央公園で闘病経験を語るトークショーなどを開催したほか、全国から集まったこどもたちは、若年性認知症の皆さんや、ホスピス病棟で闘病されている患者さん方と交流し、「命」と向き合う貴重な体験をしました。

それに先駆けて前日の31日には、一昨年のテーマ「地球を守ろう」を契機に、基金が重点活動のひとつとして2年越しで取り組んでいる「地球環境保護」のシンボルとして、林野庁・佐賀森林管理署の協力を得て整備を進め

ていた遊々の森「夢みるこども基金の森」森開きが行われ、「自分たちの森を持ちたい」というこどもたちの夢が実現しました。

イベントには「わたしのかなえたい夢」をテーマに基金が全国から募集、応募作3296点の中から選ばれた小、中学生15人が参加。2日間の日程で自然の大切さと命の尊さについて、この上ない体験を重ねることができました。この模様は新聞、テレビ各局から取材を受け、広く活動を知っていた多くの機会にもなりました。

また、今年は多くのOB、OGがイベントを支えました。自ら歯科医師となつて活動を支える長尾伶美理事をはじめ、環境「こども新聞」の編集に携わる堀江健一郎君らが企画段階から参画。当日も多くの先輩が福岡に

集結、早朝から炎天下で会場設営に汗を流した青年、基金の活動を読者に伝えたいと取材に来た全国紙の記者、福岡での素晴らしい体験が忘れられず東京から九州大学に進み後輩の世話を務

#### イベント日程

【7月31日】

午前 唐津市 虹の松原で松葉掻き  
午後 佐賀市 遊々の森「夢みるこども基金の森」森開き

【8月1日】

午前 福岡市 水素カー試乗  
同 天神中央公園で「命(いのち)」のイベント  
午後 同 天神オアシスクラブ(若年性認知症の方々のクラブ)訪問  
福岡県粕屋郡 栄光病院・ホスピス病棟訪問

#### お知らせ

#### 「夢みるこども基金」のホームページがリニューアルしました。

サイトがより見やすくなりました。  
基金の内容がより分かりやすくなりました。  
アドレスが短くなり分かりやすくなりました。

URL: <http://www.yumemirukodomo.jp>



「環境こども新聞」の  
なまえが新しくなりました!

環境こども新聞 **ECoko** エコ  
Environmental Kodomo Newspaper, ECO

「ECoko」とは環境問題を考えるこどもたち  
Ecology+Kodomoの造語です。

主催: 夢みるこども基金  
後援: 福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀市、佐賀市教育委員会、唐津市、唐津市教育委員会、佐賀森林管理署など



# 森から人へ「命」のイベントに感動の輪広がる

## イベント初日

### 松葉掻きでマツの再生を

#### 虹の松原で

初日は、早朝から佐賀県唐津市の国の特別名勝「虹の松原」で松葉掻き。福岡地区の参加者を中心に20名（うち8名が出勤し、NPO団体KANNEカネネの皆さんと大量に積もった松葉を掻き集めました。「自然を守るをテーマに始めて今年

で3年目。効率良く快調に作業を進め、40分ほどで大袋29個を積み上げました。KANNEの安田さんは「松の生育に重要な根まわりを重点的に掻いてあり、何が大切かをわかってくれている。イベントの作業ではなかなかうはいかない」と感心しきりでした。参加者はバスでいったん福岡に戻り、全国から集まった仲間と合流。春以来の再会を喜び合いました。

た。

### 木々の息吹に包まれて

#### 夢みる子ども基金の森で

午後からは全員で福岡と佐賀の県境にある佐賀市三瀬村の国有林へ向かいました。福岡からバスで国道を1時間ほど。わずかに林道を入ったばかりなのに、周囲はすっかり深い森の中で、木々の間から垣間見える景色は海が一望できる絶景が次々現れ、車内に歓声が上がりました。国道を離れ約15分進むと、佐賀森林管理署の皆さんが総出で迎えてくれました。

「基金の森は、国有林約5.6haを基金が借り受け、遊歩道、広場、ロープ、看板などを基金で整備しました。管理は同管理署に委託。これから果箱作りなどを徐々に整えてゆきます。立入は自由で、関係者だけでなく、広く一般に公開します。森を通じて基金の活動への理解も深まるのでは」と期待しています。



森の精気に包まれて

森の入り口には「夢みる子ども基金の森」と大きく書かれた看板が準備され、子どもたち全員で土台にスコップで土をかけて除幕式が行われました。森の中はフナやナラの広葉樹林が広がり、緩やかな傾斜と落ち葉の間を小川が流れ、無数の鳥やせの鳴き声と小川のせせらぎが、ひんやりとした心地よい空気の中に響きわたります。中に入った子どもたち

は大はしゃぎでした。

森開きにあたり八尋晋策常任理事の挨拶の後、大倉孝行佐賀森林管理署長から「どんな生き物がいるか、ただ見るだけでなく、臭いを感じ聞き、かきり、五感で感じてみてください」とのお言葉をいただきました。その後、森の中に設けた切り株で作られたイスに座り、クイズ形式での森林教室。森の役割や自然の大切さを楽しく学びました。最後「子どもたちを代表して福岡・宇美中2年の高野愛花さんが、普段聞けない音や珍しい植物に出会えて楽しかったと感謝の言葉を述べ、全員で森林浴を楽しみながら、遊歩道を散策しました。鹿児島・鷹巣小4年の田中太朗君は「僕の町も自然は豊かだけどこんなに素敵な森は初めて。家族でまた来たい」と目を輝かせていました。

この後はさが21世紀県民の森でバーベキュー。炭火の煙にまかれながら、小学生は互いにすっかり打ち解けて盛り上がり、東西が集まった中学生はそれぞれの地元の話を披露、お酒ならぬ麦茶で乾杯しつ、将来の夢や趣味の話に華を咲かせ、あという間に夜は更けてゆきました。

## イベント2日目

### 地球に優しい水素カー

#### 天神の街で

「ガリリ」となっていく水で走る車が、あらはいいの。そしたら地球がきれい

いなるよね。これは今年の参加者

田中太朗君が作文に書いた夢です。その夢から、福岡県環境政策課の全面的な協力と今回の燃料電池自動車（水素カー）試乗が実現しました。その名も「トヨタFCV Hybrid」。水で走るのとは少し違いますが、水素で走る車です。車の中の水素タンクと空気の酸素を化学反応させ、電気を作り出します。排気されるのはCO2ではなく水なので、地球にとても優しい車で、現在実用化に向けてあと少しの段階だそうです。

その水素カーに乗れとあって、こどもたちの期待は前日から高まっていました。福岡県環境政策課の方々から水素カーの説明を受けた後、路上で約10分間の試乗を楽しみました。基金理事であるアグネス・チャヤさんも試乗し、最後にこどもたちと水素カーの前で記念撮影も行いました。



水素カーの試乗をするアグネス理事

## ◇開会式

### 「共に生きる命を考えよう」

#### 天神中央公園で

8月1日の午前10時、天神中央公

園にて、第16回イベントが開催されました。司会には山田優子フリーアナウンサー。福岡・城南小3年の堀江幸奈さんが「今日は命の大切さを精一杯学びたいと思います」と元気よく開会宣言をしました。開会挨拶は基金常任理事の八尋晋策氏で「昨日オープンした基金の森を通じて、こ

もたちに森林の大切さや自然の恵みについて考えてほしいと挨拶しました。続いて基金理事であるアグネス・チャヤさんが「こどもたちの仕事は夢をみる。大人はこどもたちに夢を勇気を与え、その夢をサポートすることが大事。今年は命についての夢が出てうれしい。みんな共に生きる命を考えよう」と意気込みを語りました。

3団体への寄付目録贈呈のプレゼンターは福岡県歯科医師会副会長であり基金理事でもある永田正典氏。ネパール児童教育振興会、バングラデシュ夢みる子ども基金学校へそれぞれ寄付金が贈られました。

## ◇第3部

### 命のイベント次々と

灼熱の太陽の下で、気温も30度をゆうに超えていました。開会セレモニーの後は急遽、場所を少し木陰に移動しての第2部が始まりました。まずは例年欠かさずイベントに参加している盲導犬はくん1号2号の紹介です。はくん1号のリーダー脇崎恵子さんは「はくんが来てからもう7年。毎日楽しいが、はくんの引退が後々月後に迫っている。本当に悲しいがとても感謝している」とハートナードと通した月日を懐かしみ振り

返りました。はくんの号のリーダー福澤英雄さんは「長年、私の目となって働いてくれているはくんがいない生活は考えられない」と語りました。

## ◇ ◇ ◇

次に4年前に心臓移植を受けた江田果瑠奈（かると）さん（20）と母・博子さん（移植を待つ家族の会代表が臓器移植推進の呼び掛けを行いました。果瑠奈さんは先天性心疾患で幼い頃から心臓の手術を繰り返していましたが、4年前の平成18年にドバイにて心臓移植を受けました。自力では歩けなかった術前から驚異の回復をし、現在は定時制の高校に通っています。また、弟の江田健太郎君は、移植を控えた姉・果瑠奈さんのことを書いた作文で基金の第12回コンクールにて最優秀賞に選ばれており、基金から果瑠奈さん募金の援助も行っていただくことにより、今回の参加に至りました。

海外における心臓移植は年間数千例に上る一方、日本では年に数回しか行われていません。その数回に対し、日本で移植を待つ患者は数百人にも上るため、ほとんどの方が海外での移植を希望するが、移植を待ちながら亡くなってしまっているのが現状です。博子さんは「移植で助かる命があることを知ってほしい。息をするのが精一杯だった娘がこんなにも元気になったところを見てほしい」と話しました。

会場には、臓器移植について考えるコーナーが設置され、参加者に臓器提供意思表示カードが配られました。北野教室による手話ダンスでは



小、中学生と大人計27名が手話の歌とダンスを披露しました。曲は手のひらを太陽に他5曲でした。基金参加の子どもたちも手話の指導を受けて一緒に踊るなど、真夏の空の下、子どもたちの大きな歌声が響き渡りました。

田村耕治さん福岡県早稲田大学健康事業団総務部長と宮部治恵さんリレーフォーライフ福岡実行委員長によるがんについての講演も行われました。田村さんは同事業団で行っているがん検診の実施等の「がん征圧活動」について、宮部さんは自身のがんを克服した体験からが

んの怖さやがん検診の重要性を語りました。会場には肺がん等のがんモデルやパフレッツの展示コーナーも設置され、子どもたちはがんという病気の怖さについて知り、自分の両親にも検診を受けてほしいと考えたようです。

樹木医の白石眞一さんによる樹木の健康についての話もありました。特に森林の土を人の足で踏み固めてしまうと、木々に栄養が回らなくなるという樹木医視点の話には、子どもたちも興味津々といった様子で聞き入っていました。



手話ダンスを披露する子どもたち

トークもあり、「世界には厳しい状況におかれた子どもたちがたくさんいる。彼らは生きていく中で精一杯で夢をみることもできない。それに比べ、日本の子どもたちはとても恵まれていると思う。みなさんは夢を持てる。それを幸せなことと感謝して、これからまたその夢を持って生きてほしいと力強く語りました。

閉会の挨拶は長尾裕美理事（OB・OG会会長、九州歯科大学院1年）で、今年は基金の森もオーブにして、また一つ子どもたちの夢が叶った年になった。全国の歯科医師の方々にも是非イベントに足を運んで、子どもたちの夢に出会ってほしい。とキャンペーンの協力を呼びかけ、午前の部が終了しました。

午後は場所を変えて、「命の現場をのめるといふテーマの下、認知症クラブである天神オアシスクラブとホスピス医療の栄光病院の園所を訪れました。

### 認知症はある日突然やってくる —天神オアシスクラブで—

若年性認知症。子どもたちは聞き慣れない言葉に首をかしげました。施設長の中島七海さんは「今日うちたみんなのことは明日はもう忘れてるかもしれない。家族でさえも忘れてしまふ。それが認知症と話しました。ここ、天神オアシスクラブでは、主に18歳から65歳までの若年性認知症（若年性アルツハイマー）の方やその家族を支える活動を行っています。ここに通う江島豊彦さん（63）もその一人です。江島さんは5年前、定年を前にして会社での物忘れがひどくなり、病院を受診。複数の病院を受診



天神オアシスクラブで患者さんと笑顔のふれあい

する参加者の姿もありました。最後に、子ども代表として秋元純君（福岡・福岡大学付属大濠中2年）が今日のことをしっかりと頭に刻み、認知症の正しい知識と共に広め、地域全体で支える社会にしていきたいと挨拶し、基金から椿3鉢を贈りました。

アグネスチャン理事がアカペラでひなげしの花を披露するなどのサプライズもあり、参加者がみな穏やかな空気に包まれました。

輝く命の心の中で生き続ける  
—栄光病院・ホスピス病棟で—

今回、命の現場をつつめる、ということで訪問が決まった栄光病院。終末期医療を主とする病院であり、ホスピスと呼ばれるところで、普段、訪れる機会のない場所にと、子どもたちも緊張気味でした。病院のホールにはたくさんの方が集まっていた。ベッドに寝たきりのおばあちゃんや車いすの方、そのご家族の方、皆がのどを染みみしてくるというのです。

司会は栄光病院理事長である下稲葉康之医師が務めました。ここにいる患者さんはそれぞれ重たい病気を抱えています。そう穏やかな口調で語り始め、この病院について説明をしました。

今回の訪問のためにある家族が「命について語ってくれました。近藤さん一家です。近藤さんは、今年2月に9ヶ月の闘病の末、この栄光病院で亡くなりました。病名は神経膠腫グ



栄光病院で患者さんと歌などを交歓する子どもたち

の父を早くに亡くしたことを語りました。「人生は短い長いではなく、人の心にはたくさんの種をまけたか。父はたくさん自分の心に種をまいてくれた。その人のことを覚えていてくれたら、命はリレーして、ずっと生き続ける。」そして自身も乳癌の経験から、「毎日が誕生日、と思うように生きていく。昨日も明日も関係ない。今日を精一杯楽しく今を感謝して生きる」とこの言葉に会場からは感嘆の声が漏れました。その後アグネス理事はこの良き日に熱唱しました。最後の締めくくりに挨拶は子ども代表の林松子さん（東京・蒲原中3年）が「今日、出会ったみなさんは私たちの心の中にずっと入りこんでいてくれた。お互いの中にお互いの命が入った。ひとつ、一生忘れない出会いだと思ふ。みなさんも私たちのことを忘れていてくれたらうれしい」と挨拶をし、会場からは拍手が送られました。病院にいる方々の輝く命に触れたことで、子どもたちがそれぞれに精一杯生きることに改めて考えられました。今日という日を命を考える第一歩になてくれればと思います。



## 《イベントについてのアンケート調査》

### 基金の森の関心高い!



森の中の樹木について学ぶ子どもたち

夢みるこども基金事務局ではイベントに参加した15人のこどもたちに、イベントの感想などについてアンケートをしました。14人のこどもたちから回答がありました。特に「夢みるこども基金の森」についての満足度や期待が高いようです。基金ではこどもたちの声を今後のイベントや基金運営に生かして行こうと思います。アンケートの集約した分を掲載します。

#### ◇イベントに参加してどんなことを感じましたか?

- ・とても忙しかったけれど色々な所へ行って楽しかったです
- ・貴重な体験を出来た
- ・楽しかった
- ・森林の大切さや命の大切さが分かりました
- ・命は大切だと感じた
- ・命の大切さをよく知る事ができました。ありがとうございました
- ・初めてイベントに参加してみたいろんな事を学べてよかった
- ・人それぞれの生き方があるということ
- ・命の大切さや、一生懸命に生きる事の大切さ、命に対する考え方生き方について真剣に考えるきっかけとなった。自分の命についても考えられた
- ・普段は出来ないような貴重な体験ができて良かったです。本当にこども達の夢が実現する素晴らしいイベントだと改めて思いました
- ・とても、楽しく良い思い出になりました
- ・自然にふれあえてよかった
- ・昨年は環境一色でしたが、今年は福祉と環境と現代の社会問題ターゲットでよかったです

#### ◇イベントにはこども会議で出されたこどもたちの「夢」や意見が反映されていたか?

- ・はい(9名)
- ・みんなの夢全部をかなえるのは、難しいと思います
- ・命についてかいた人にはよかったのでは???
- ・みんなの夢それぞれいろいろあるので全員の意見を取り入れるのは難しいと思う
- ・されていました。特に、私が初めてこども基金に参加した時に出席された意見「こども基金の森」が叶ってとても嬉しかったです
- ・田中太郎君の意見でソーラーカーでしたが、水素カーとエコカーとしては同じなので反映されていた!

#### ◇1番感動したり、印象に残ったことは何ですか?

- ・バーベキューが楽しかったです(2名)
- ・こども基金の森に行き、歩いたこと
- ・水素カーが地球に優しい車だと分かってびっくりしました
- ・水素カーにのったこと
- ・若年性認知症の方たちの歌が感動しました
- ・天神オアシスクラブのアルツハイマー病の人の話
- ・感動はホスピス。印象に残ったのは、ホテルとバスの中
- ・ホスピス病棟での交流
- ・アグネスチャンさんの話はぼくたちがいかに恵まれているかがわかりもっと世界の人々を助けてあげたい
- ・1番印象に残ったのは栄光病院のホスピス病棟でのイベントで、本当の命の大切さなどを考えさせられました
- ・基金の森にはいることができたこと。いろいろな方々にお会いし、話を聞けたこと
- ・栄光病院に行ったこと
- ・認知症、江島さんの講演でとても勉強になった

#### ◇2日間に渡り少し締め込み気味のプログラムでしたが、内容について感想を聞かせて下さい。

- ・基金の森へ行ってうれしかったです
- ・ハードスケジュールだったけどとてもたのしかった
- ・とても勉強になりました
- ・森の大切さや認知症の苦しみや命の大切さがわかりました
- ・色々したので良かったです
- ・たくさん思い出を作ることができて良かったです
- ・一日にたくさん事をしていたくさんの人と、交流できたので良かったです。2日目は眠かったけれども楽しめた。いい友ができました
- ・普段できないこと、特に、見て、ふれて、感じる事ができて楽しかったです
- ・とてもハードスケジュールだったけど2日間だったので充実していた楽しかった。でも、病院の人達やオアシスクラブの人達もほとんど話さなかった
- ・貴重な体験ができた。環境について考えたり、命について考えたり確かに少し詰め込み気味だったかもしれませんが、その分内容が濃い2日間とても楽しかったです
- ・とても充実していました
- ・2日目はとてもきつかったけれどもいろんな人と出会えてよかった
- ・いろんな沢山の体験ができてとても良かったです

#### ◇余り賛成や同意が出来なかったものがありましたか?

- ・ない、いいえ。ありません(11名)
- ・文句なしのイベントでした
- ・中央公園の時のイベントのMCがうさかった
- ・ありません。色々と考えさせられる素晴らしいものでした

#### ◇もっとこんな内容にして欲しかったという点がありましたか?

- ・ありません(9名)
- ・森をもっとゆっくり歩いて遊びたかったです
- ・大満足です
- ・全員が1人1人としゃべれたらよかったと思う
- ・樹木医と一緒に木の健康、試みたかったです。もう少しホスピスとか
- ・みんなでもっと触れ合ったり、何か作ったりしたかったです(受賞者の人)

#### ◇基金は3年前から地球環境保護を活動の柱にして力を入れています。このことについてはどう思いますか?

- ・いいことだと思います(5名)
- ・地球の事を考えているので、いいと思います
- ・これからも続けるべきだと思います
- ・とても素晴らしい事だと思います。私に出来る事が何かあればいいのですが...
- ・どうも思わない
- ・口で言うだけじゃ分かんない事とかに触れ合えるのはいいと思う
- ・とても良いことだと思う。みんなもっともっと活動を活性化していけたらいいのと思う
- ・地球温暖化が深刻化する中、地球環境保護に力を入れるのはとても良い事だと思います。ただ、それと両立してこれからもこども達の夢も忘れずにして下さい

- ・とても大切な問題だと思うので、良いと思います
- ・とても良いと思います。個人的に環境活動を行っている分ありがたいイベントです

#### ◇基金の森はその目玉で毎年イベントに参加することたちは、この森に入ることになっていますが皆さんは環境保護に対する基金の姿勢をどう思いますか?

- ・私も毎年入りたいです
- ・色々な人たちが裏で支えてくれたので、安心でした
- ・とてもいいことだと思います
- ・とてもいい経験でいい事だと思います
- ・環境保護は大切なので勉強していきたいです
- ・私はそこまで環境保護に関する事は考えていなかったのですが、森を作る事はとてもすごいんですね!
- ・どうも思わない
- ・very good
- ・いいと思う。巣箱かけとか、実際にやってみたりするといいかも知れない
- ・基金の森なのだから少しずつ森を自分達の手で何かしていけたらいいと思う
- ・良いと思います。これからも基金の森を中心に色々な環境保護をしていって下さい
- ・とても良いと思います。来年もOGとして森に入りたいです
- ・良いと思う
- ・社会問題を小さな子供時代からふれ理解する事はとても重要でそのきっかけを作る基金の活動はとても良いと思います

#### ◇イベントについて今後「こんな風にして欲しい」などの意見がありましたら教えてください。

- ・特にありません(7名)
- ・「わたしたちが何かする」ということが少なかったように思います
- ・自然の中で遊べる事も取り入れてほしいです
- ・森でもっと体験がしたかったです
- ・もっと楽しい時間があったといい
- ・イベント参加者が受け身になるのではなくもっともっと参加する意識のもてるようなイベントがいいと思う
- ・基金の森での散策の時間が少ないような気がしたのでもう少し時間をかけてゆっくり森が見られたら良かったかなと思いました
- ・見るだけではなく、体験出来るものを取り入れて欲しい
- ・もっと楽しい時間があったといい。遠くの方でイベントがしたい

#### ◇基金のイベント参加者でOB・OG会(会長:長尾怜美)を組織していますが、この会を通じて皆さんが交流を続けて行く事には賛成ですか?

- ・はい、賛成です(12名)
- ・大賛成です
- ・是非、参加したいのでOB会の交流を深めて下さい

#### ◇基金のOB・OG会では年4回程度「環境こども新聞」を発行していますが、投稿などを通じて新聞作りに参加する気持ちはありますか?

- ・ある(6名)
- ・わたしが書けるようになったら書きたいです
- ・はい、参加したいと思います
- ・これからぜひ参加したい気持ちでいっぱいです
- ・ない
- ・年に2回程度なら要請があれば書きます(出来れば)
- ・出来るだけ参加したいと思う
- ・あります。自分の作ったものが環境こども新聞に載るのはとても嬉しいです
- ・積極的に参加したいので、是非声をかけて下さい。ちなみにドイツエコツアーのことを書いたのですが、記載下さるのなら写真も送らせて頂きます

#### ◇その他に意見があれば何でも教えてください。

- ・特にありません(5名)
- ・年に1回じゃなくて、春の森、秋の森、冬の森に行きたいです
- ・ひとりっ子なので、同学年の友達ができよかったです
- ・とてもいい出会いと経験が出来たのでまたイベントに参加できるように毎年応募します。よろしく願います。いろいろとありがとうございました
- ・イベントの時にテレビカメラがきていたのですがそれはどうだったのでしょうか?
- ・虫に興味があるのでクヌギの木をうえてください
- ・質問 OBってイベントに参加してもいいんですか?もうちょっと身近に山に入れる場所があったらいい。場所が遠くてわからない...山の中での禁止事項とかありますか?
- ・もっと普段からOB・OG会を通じてコミュニケーションがとれるといいと思うのですが、難しいと思います
- ・ホスピスの皆さんが喜ばれる姿を見てとてもよかったです。ありがとうございました



# 第16回こども宣言

全国からたくさんのごもたちが、福岡に集い、第16回夢みるこどもキャンペーン「共に生きる社会のために」命のいのちの現場をみつめてのイベントを開催しました。

今回、全国から寄せられた「私の夢」作文・絵の中には命に関するものがたくさんありました。「命」とは「生きる」とはどういうことか、自分たちの目でしっかり確かめたいという思いが集まり、メイン会場でのイベントの他に、若年性認知症クラブ、ホスピスといった施設を訪問する機会をいただきました。

「生きる」とはどういうことなのか。私たちにはたくさんの夢や希望があります。でも死んでしまつたら夢も希望も全部消えてなくなってしまう。それが怖くて今まで「死」について考えることを避けてきました。「生きる」と「死」はまったく別のものだと考えていました。

今日、たくさんのお会いをしました。癌を克服した方、心臓移植をして元気になった少女、父親を病気で亡くしたごもたち、

若年性アルツハイマーながらも前を向いて生きている方、ホスピスにいて余命わずかながらも明るく笑っていたおばあちゃん。

皆、辛い体験をされた方ばかりです。「死」と隣合わせの経験



イベントの開会宣言をする堀江幸奈ちゃん

とについて考えるようになったと気づきました。皆、限られた命です。今まで漠然と「生きて」きました

さんがくれた愛情と思い出、家族の絆がつまっています。それは僕の一生の宝です。まっすぐに天を見つめていた少年の目が、とても印象的でした。私たちは彼の父親に会ったことはないのに、何

をされた方もたくさんいました。

でも、皆その姿は凛として、前を向いていました。自分と戦いながら懸命に「生きて」おられました。

はつとしました。「死」について考えるということは「生きる」と

した。

そしてこんな出会いもしました。半年前に父親を亡くした少年です。彼はこう言っていました。「お父さんは亡くなってしまうけれど、僕の心の中にはお父

だと思っています。

「人生は長い短いではない。ど

れだけ自分が人の心の中に種を蒔けたか。自分が亡くなっても、自分を覚えていてくれる人がいるのなら、その人は生き続けている」。これは、夢みるこども基金理事のアグネス・チャンさんが言った言葉です。

今日、訪問したホスピスの方々は余命幾ばくもないかもしれない。でも、私たちの心に確実に種を蒔いてくれました。私たちは今日のこの出会いを忘れません。心の中の種を大事に育て、花を咲かせようと思います。そしてもらった種をしっかりと受け継ぎ、また他の誰かの心に蒔けるような人生を歩みたいと思います。たくさん輝く命に触れて、たくさんの愛を感じたことで、命の重みと人々の温かさを心に刻むことができました。この受け取った命のバトンを次に渡すときまで、私たちは懸命に生きていきます。

平成22年8月1日

第16回 夢みるこどもキャンペーン「共に生きる社会のために」命のいのちの現場をみつめての参加者一同



# 夢の意見が飛び交う

夏休みに開催するイベント

の内容を決める第16回「こども会議」が3月28日、福岡市中央区天神のアクロス福岡・円形ホールで開かれました。全国の小、中学生を対象に「わたしのかなった夢のテーマ」で募集した作文と絵の応募者3296人の中から選ばれた22

人が出席しました。

八尋晋策常任理事(元読売新聞西部本社論説委員・経済部長)が「私も審査員としてみなさんの作品を読みましたが、文章が上手で引き込まれてしまう作品もあれば、文章が拙くても内容が極めて素晴らしく感動的な作品もありました。



第16回こども会議で活発な意見の交換

どれも甲乙つけがたいものでしたが、私は中身のいい方にたくさん点数をつけました。昔から「人は現実と直面する度に、一つずつ夢を失っている」と言われます。こどもの頃は夢いっぱい、しかし大人になって厳しい現実と直面する。その夢を打ち砕かれる、ということ。確かに現実とはそれほど厳しいけれど、例えば夢が打ち砕かれても、夢のかたちをかえ、新しい夢を持つて切り開いていけるような大人になつてほしいと願っています。最近の作品の流れは、環境問題に対する関心が高いようです。基金では、環境問題を大きな柱に据え、環境こども新聞を発行しています。それから、佐賀県の脊振山系に5診ほどの国有林を借りて、夢みるこども基金の森を立ちあげます。最後に、基金の運営は歯医者さんの協力でまかなっています。この場を借りて、協力してくださっている歯医者さんたちに感謝の意を表したいと思います。もともとと協力してくださる方が増え、基金が大きく発展していくことを願っています。」と挨拶をしました。

古市悟常任理事・事務局長(元スポーツ報知西部本社取締役編集部長と平松暁実行委員(グラフィックデザイナー)がそれぞれ作文と絵についての審査結果を発表し、続いて基金の役員から入賞者賞状と賞品が贈られました。今回最優秀賞に輝いたのは、作文の部に玉山沙也加さん(大分県・植田小6年)、絵の部に林桜子さん(東京都・蒲原中2年)でそれぞれが自分の作品について紹介しました。



この後、夢みるこども基金の理事で同OB・OG会会長の長尾怜美さんと中原淳一J.R東海課長をコーディネーターに「こども会議へ」に移りました。「離れているお父さんに会いたい」「救命救急士になりたい」「戦争考古学者になりたい」「街中のすべての明かりを消して星空を眺めてみたい」など、それぞれが作文や絵に込めた「夢」について語り合いました。

夏休みのイベントについては、2年前の第14回こども会議で決めた「夢みるこども基金の森」開きをするのが発表されましたが、その他のイベント内容については、引き続き事務局で検討していくことになりました。

◆作文・絵の上位入賞者は次の通り(敬称略)  
応募総数3296点(作文1484・絵1812)  
◇第16回 作文の部入賞者リスト(22名)  
最優秀賞(1名)▼玉山沙也加(大分・植田小6年)「私のお父さん」  
優秀賞(2名)▼堀江浩司(福岡・城南中1年)「命の守人」▼崎津 優誠(兵庫・芦屋学園中2年)「豊かさを分かち合える人」  
特選(6名)▼草野 愛加(大分・植田小6年)「みんなが、つみんない」▼石橋 健斗(福岡・愛宕浜小6年)「将来」▼高野 愛花(福岡・宇美中1年)「このおくりもの」▼古柳 真美(福岡・宝城中2年)「夢」▼秋元 純(福岡・福岡大学附属大濠中1年)「星に願いを…」▼堀江 幸奈(福岡・城南小2年)「いつか、ママのお母さん」  
入選(13名)▼片山 悠斗(福岡・赤坂小4年)「家族の夢 僕の夢」▼清水 佑起(茨城)石岡小6年「ゆめ」▼中野 青空(福岡・甘木中1年)「差別や偏見がない世界を」▼上原のぶちか(福岡・横手小3年)「自分のために」▼深田 萌木(東京・淑徳小5年)「やりがいのある仕事」▼江藤 萌生(福岡)原北小4年「私の木」▼日比生 征子(福岡)宝城中1年「夢に向かって」▼犬丸 桃花(福岡)水城西小3年「私のかなえたい夢」▼中原 大成(埼玉)黒浜小4年「サインは筆で書くぞ」▼田中 太朗(鹿児島・鷹巣小3年)「ぼくのかなえたい夢」  
◇第16回 絵の部入賞者リスト(25名)  
最優秀賞(1名)林 桜子(東京・蒲原中2年)「失われた干潟を取り戻したい 生物のために」  
優秀賞(2名)▼倉園 勇二(福岡・田隈小3年)「自分の船でドバー!かいきょうおっだん」▼濱屋 江里(大阪・池田中2年)「FACE WORLD」  
特選(6名)▼樋渡 工(佐賀)鍋島中2年「核兵器をなくす」と▼坂口 めぐみ(石川)松波小6年「魚たちとほろ酔いして友達になりたい」▼上森 悠史(福岡)山田小6年「今習っている太鼓を将来もつきたいです」▼前田 昂太(福岡)西高宮小2年「ふじ山に登りたい」▼太田 永遠(福岡)赤坂小6年「自然が増えますように」▼



# 「わたしのかなえたい夢」

## 作文・絵コンクール・最優秀賞

作文の部・最優秀賞



玉山 沙也加  
大分県  
植田小6年  
(入賞当時)

### 「私のお父さん」

私には、叶えたい夢がたくさんあります。女優さんにもなりたいし、美容関係の仕事にもつてみたいです。でも、私が今一番叶えたい夢は、職業などの夢じゃありません。

私の夢は、ずっと会っていないお父さんに会って、たくさん話をする事です。

私には今、お父さんがいません。私が四年生の頃から、アルコールいぞん症ですとお酒をのんでいました。そのせいで、その頃からは私はおばあちゃんの家に住んでいたの、四年

婚したころはきらいだったお父さんに、今はまた会いたくなあつて思えるようになりまし。今はもう、アルコールいぞん症は治つて、四カ月もの間お酒はやめていそうです。この前おばあちゃんが「お父さんがアルコールをやめたのは、いつかきやかたちに会うためだつて。」と言つていました。

お父さんがこんなにながなばつてゐるから、私も、お父さんに会えるまで、勉強や部活などにがんばつて、お父さんに会うときには、立派になつていたいです。私の夢は、すぐ難しい夢です。どこにゐるかもわからなくなつて、どこではたらいゐるのかもわかりません。でも私は、いくら難しくても会いたいと思つてずっと探してゐたから、いつか会えると思ひます。だから、私もいっぱい努力して、立派になつて会いに行きたいです。

絵の部・最優秀賞



林 桜子  
東京都  
蒲原中2年  
(入賞当時)

### 「失われた干潟を取り戻したい生物のために」

私の夢は失われた干潟を取り戻すことです。干潟によって生息生物が違つて欲しいです。



## 夢みる子ども基金だより

三情報

### 今年もサクラを植樹

3月28日午前、こども会議に先立ち、こどもたちの代表4人は福岡市東区の青葉公園にサクラの苗木(ソメイヨシノ2年生木、高さ約2m)を7本植えました。基金は「環境」でも新聞の発行に続く第2弾の地球環境保

### テレビレポ

FBS福岡放送の人気番組「めんたいワイド」掲示板コーナーで、夢みる子どもキャンペーン第16回イベント「共に生きる社会のために」(いのち)の現場をみつめての告知をしました。(7月26日午後5時40分より放送)

撮影はFBS玄関前で行われ、夢みる子ども基金OBで今年から実行委員に加わった堀







**堀江 浩司**  
福岡  
城南中2年

夢みるこども基金を支える歯科医院の先生方、いつも僕達の夢実現に向けて協力支援下さり、ありがとうございます。これからも、応援よろしくお願いします。



**崎津 優誠**  
兵庫  
芦屋学園中3年

大変立派な授賞式に参加させて頂いた事をとても嬉しく思います。それと、昨年に引き続き今年も新しい友達が出来ました。学校や地元にも友達はいますが、遠く離れた所に友達出来る事はまた格別な意味があり、今もメールで連絡を取り合っています。「人とのつながり」を大切に行きたいです。ありがとうございました。



**高野 愛花**  
福岡  
宇美中2年

歯医者さんのおかげで、普段は会えない友達、初めての人と仲よくなり、いっしょに話したりすることが出来ました。又、いつもなら出来ない体験をありがとうございます。このイベントで学んだことを生かし、夢を大きく持って一步一步進んでいきたいです。全国の歯医者さん、ありがとうございます。



**秋元 純**  
福岡  
福岡大学附属  
大濠中2年

基金のためにいつも協力していただきありがとうございます。これからも色々とお世話になると思いますが自分たちもこれからがんばりますのでよろしくお願いします。



**堀江 幸奈**  
福岡  
城南小3年

いつもわたしの歯のけんこうをみてくださり、ありがとうございます。おかげで、むし歯のないピカピカの歯は、わたしの自慢の一つです。



**江藤 萌生**  
福岡  
原北小5年

私の通っていた「なんなり歯医者」もご協力して下さっていて、それを感じるの気持ちでいっぱいになります。本当にありがとうございます。歯医者さんのイメージはとってもこわい感じですが、このような協力もして下さっていると思うと、こわいイメージもどこかへ飛んでいってしまいます。これからも、「歯のちりょう」と「夢みるこども基金」をよろしくお願いします。



**中原 大成**  
埼玉  
黒浜小5年

ぼくは歯のきょうせい歯医者さんに治してもらい、野球で力いっぱい投げられるようになりました。歯医者さん本当にありがとう。



**田中 太郎**  
鹿児島  
鷹巣小4年

ぼくは2才の時から歯医者さんに行っています。今は3か月に1回定期点検に行きます。おかげで虫歯がありません。歯医者さんの先生や衛生士の方はとても優しく、全然痛くもないので、歯医者に通うのは楽しみです。

## 歯医者さんぼくたち、わたしたちの夢を 応援してくれて「ありがとう」

こどもたちから歯医者さんへ  
たくさんの感謝の言葉が届いています



**林 桜子**  
東京  
蒲原中3年

歯医者さんのお陰で、私だけでなく多くの子供達が周りの問題を学ぶことができ、同時に夢の実現へと近づいていると思います。これからも頑張ってください。



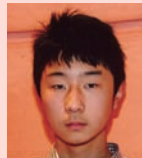
**倉園 勇二**  
福岡  
田隈小4年

ぼくは歯のしつが弱く、歯医者さんにお世話になっています。とてもやさしいせつ方です。すごく安心します。本当にありがとうございます。



**濱屋 江里**  
大阪  
池田中3年

今回で3回目の参加になります。また、皆さんにお会いでき、とても嬉しく思います。歯医者さんのおかげで毎回楽しい思い出ができ、本当に感謝しています。



**樋渡 工**  
佐賀  
鍋島中3年

歯医者さんのおかげでこの活動ができていたので本当にうれしいです。これからもよろしくおねがいします。



**上森 悠史**  
福岡  
千束中1年

夏のイベントでは、ふだんは体験できないことをさせていただきとてもうれいです。こんなたくさんの体験をさせてくださった、全国の歯医者さんにはとても感謝しています。



**村山 玲遠**  
福岡  
青葉小4年

歯医者さんたちがぼくたちのゆめをおうえんしてくれてありがとうございます。これからもみんなのゆめをおうえんして下さい。



**木下 澄香**  
福岡  
席田中2年

今回応募したことで、この基金が歯医者さんのおかげで成り立っていると知りました。今まで歯医者さんには何度もお世話になっています。感謝しています。私たちの夢への応援、これからもよろしくお願いします。



**柿元 彩葵**  
鹿児島  
寿北小2年

こども会議へ出席することができて、とてもいい思い出になりました。歯医者さん、これからも私達の夢を応援してください。





夢みるこども基金は本来の目的である「こどもたちの夢の実現」の他に、財政が許す範囲で、盲導犬の贈呈や寄付などの福祉活動も行っています。昨年に引き続き今年もバングラデシュの「夢みるこども基金学校」に50万円、ネパール歯科医療協力会に30万円、福岡・ネパール児童教育振興会に10万円を贈りました。



## ■夢みるこども基金 寄付一覧表

寄付金内容			金額	寄付金内容			金額
平成 7年 8月	24時間テレビ愛は地球を救う		300,000	平成17年 1月	新潟県中越地震		3,000,000
平成 9年 7月	ネパール歯科医療協力会		300,000	平成17年 4月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		3,000,000
平成10年 3月	バングラデシュ夢みるこども基金学校(学校建設費)		2,000,000	平成17年 6月	スマトラ沖地震		2,000,000
平成10年 7月	ネパール歯科医療協力会		300,000	平成17年 8月	ネパール歯科医療協力会		300,000
平成11年 3月	バングラデシュ夢みるこども基金学校(学校建設補助金)		600,000	平成17年 8月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000
平成11年 8月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		100,000	平成18年 7月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		300,006
平成11年 9月	ネパール歯科医療協力会		300,000	平成18年 7月	江田果瑠奈さん(心臓移植手術)		100,000
平成11年 9月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000	平成18年 8月	ネパール歯科医療協力会		300,000
平成11年12月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		103,700	平成18年 8月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000
平成12年10月	ネパール歯科医療協力会		300,000	平成19年 2月	九州盲導犬協会(盲導犬二頭)		1,800,000
平成12年10月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000	平成19年 7月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		1,000,000
平成13年10月	ネパール歯科医療協力会		300,000	平成19年 9月	ネパール歯科医療協力会		300,000
平成13年10月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000	平成19年 9月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000
平成13年12月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		2,000,001	平成20年10月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		500,000
平成14年 3月	8020推進財団		2,000,000	平成20年10月	ネパール歯科医療協力会		300,000
平成14年 9月	ネパール歯科医療協力会		300,000	平成20年10月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000
平成14年 9月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000	平成21年 8月	ネパール歯科医療協力会		300,000
平成14年 9月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		100,116	平成21年 8月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000
平成15年 1月	九州盲導犬協会(盲導犬一頭)		1,800,000	平成21年 9月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		500,000
平成15年10月	ネパール歯科医療協力会		300,000	平成22年 8月	ネパール歯科医療協力会		300,000
平成15年10月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000	平成22年 8月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000
平成15年10月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		140,411	平成22年 9月	バングラデシュ夢みるこども基金学校		500,000
平成15年10月	イラク・アジアエキュメニカル奉仕会		300,000				
平成16年 6月	バングラデシュ夢みるこども基金学校(ビ・機代20万を含む)		300,119				
平成16年 9月	ネパール歯科医療協力会		300,000				
平成16年 9月	福岡・ネパール児童教育振興会		100,000				
合 計				27,844,353			

## ■協力歯科医院数(都道府県内訳)平成22年9月15日現在 合計1,092件

県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数
福 岡	267	大 分	34	新 潟	16	香 川	11	山 形	6	京 都	3
東 京	149	北海道	32	沖 縄	14	愛 知	11	岐 阜	6	滋 賀	3
神奈川	50	長 崎	32	宮 城	14	岡 山	9	山 梨	4	鳥 取	2
山 口	43	熊 本	27	広 島	14	栃 木	9	石 川	4	秋 田	2
埼 玉	41	佐 賀	27	青 森	13	岩 手	8	島 根	4	高 知	1
鹿児島	39	福 島	21	三 重	12	群 馬	7	福 井	4	富 山	1
千 葉	38	宮 崎	19	茨 城	11	長 野	7	徳 島	4	和歌山	1
兵 庫	34	大 阪	16	静 岡	11	愛 媛	7	奈 良	4		

## 「歯医者さんへ」こどもたちへのメッセージをお願いします

基金だよりでは、こどもたちからの「歯医者さんありがとう」のメッセージに対し、協力歯科医院の先生方からこどもたちへの「歯科医からのメッセージ」のコーナーを設けています。こどもたちへの励ましやアドバイスなどの投稿をお願い致します。住所、歯科医院名、氏名を明記し顔写真を添付の上お送りください。原稿は50～100字を目安をお願い致します。

●メッセージの送り先

夢みるこども基金事務局

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-6-2F

FAX: 092-751-0249

E-mail: jimukyoku@yumemirukodomo.jp



# キャンペーン「夢」のイベント



第6回

H12. 8/6

## 「フリカの大地に根付け こどもたちの願い」

福岡県・宇美町の農家で開催。内戦で苦しむアフリカ・スーダンに贈る食物の種子を収穫し、ユニセフを通じて現地に送った。その後、竹馬、竹とんぼも作り、こども全員で遊んだ。翌日、児童養護施設に贈呈した。



第1回

H7. 7/27～29

## 「阿蘇こども出会いの里」

熊本県・阿蘇で開催。阪神大震災で両親を亡くしたこどもたちを阿蘇に招き、ホームステイ。こども会議のこどもたちや地元の子どもたちと大自然に触れ、交流を深めた。



第7回

H13. 8/5

## 「バリアフリーの 社会を作ろう」

福岡市・TNC会館で「こどもシンポジウム」を開催。バリアフリーについてのこどもたちの意見をまとめ、小泉首相や行政機関に届けた。また、福岡盲導犬協会へ盲導犬1頭を寄贈した。



第2回

H8. 7/25～27

## 「阿蘇こどもみどり村」

熊本県・阿蘇で開催。こども会議のこどもたち、筋ジストロフィーの少年たち、阿蘇のこどもたち、関係者ら総勢約200人が参加。雄大な自然の中で交流を深めた。



第8回

H14. 8/4

## 「世界のこどもたちと交流」

福岡市・ベイサイドプレイスで開催。「歌・踊り・食・遊び」を通じて国際交流をし、食の交流で一般市民から頂いた食事チケットの代金を九州大学留学生センターに寄付した。



第3回

H9. 7/21～22

## 「世界のこどもと 手をつなごう」

福岡市・大手門会館で開催。バングラデシュのカラムディ村から先生とこどもの計3人を招き、関係者も含め総勢約150人が参加。カラムディ村に「夢みるこども基金学校」の建設資金を贈呈した。



第9回

H15. 8/3

## 「日本の心をイラクの こどもたちへ」

福岡市・アクロス福岡で開催。日本古来の玩具(竹馬、竹とんぼ、こま、折り紙、お手玉)、パッチワーク、教材費をイラクのこどもたちへ贈った。



第4回

H10. 7/24～25

## 「夢の放送局」

福岡市・キャナルシティ博多のサンプラザで開催。こどもたちの夢トークや、筋ジストロフィーの少年バンドによるライブが行われた。また、市内中心部をラヴワークし、バングラデシュ「夢みるこども基金学校」の教材費のために募金を呼びかけた。



第10回

H16. 8/1

## 「こどもたちが結ぶ10年の夢」

福岡市・アクロス福岡で開催。10回目の記念イベントとして第10回の「こども会議」のこどもたちに、1回～9回のイベントに参加したこどもたちも加わり、総勢52名のこどもたちが参加。全員で高さ1.8m、全長12.6mの巨大な張り絵を製作した。また、福岡盲導犬協会へ2頭目の盲導犬の目録を寄贈した。



第5回

H11. 8/8～9

## 「ケーキがつなぐ友情の輪」

熊本県・南関町で開催。第1回のイベントに参加したこどもたちや、当時のホームステイ先の方々などと一緒に大きなケーキ作りに挑戦。出来上がったケーキを児童養護施設へプレゼントした。





# これまでの「夢みるこども」



第16回

H22. 7/31, 8/1

「夢みるこども基金の森」開設  
「共に生きる社会のために  
～命(いのち)の現場をみつめて～」

佐賀市と福岡市内などで開催。初日は佐賀市三瀬村の脊振山系の国有林約5.6%を林野庁から借りて「夢みるこども基金の森」を開設した。二日目は福岡市内で「命(いのち)」のイベントを開き、若年性認知症の方々のクラブやホスピス病棟も慰問して「命」について学んだ。このイベントに先立ち、福岡県庁の全面的な協力で「水素カー」の試乗も行った。



第11回

H17. 7/31

「キャンペーンのふる里で新潟・山古志  
福岡・玄界島の震災地の友と交流」

熊本県阿蘇・高森町で開催。こども会議のこども15人、新潟・山古志のこどもたち25人、福岡・玄界島のこどもたち30人、それに地元のこどもたちも加わり総勢123人のこどもたちが参加。ホームステイ、キャンプファイヤーなどで交流を深めた。また、参加できなかった山古志と玄界島のこどもたちに、木工品を手作りし贈った。

こどもたちの夢がかなうまで…



1

作文・イラストの公募

毎年、「わたしのかなえたい夢」をテーマに公募。  
対象は全国の小学生～中学2年生まで



2

審査

「夢みるこども基金」理事会・実行委員会にて  
作文・イラストを審査し入賞者を決定



3

こども会議

春休みに入賞者を招待し福岡市内で  
「こども会議」を開催。夏休みに行う  
「夢のイベント」を決定



4

夢のイベント

夏休みに「こども会議」のメンバーを招待し、  
夢を実現させるイベントを開催



第12回

H18. 7/30

「いつか笑いがモノを言う  
～人生は笑顔から～」

福岡市・電気ホールで開催。「笑い」をテーマにした絵本の読み聞かせやマジックショーなどを行った。また、作文の最優秀賞に選ばれた江田君の姉・果瑠奈さんがドイツで心臓移植手術を受けるための募金の応援をし、基金からも寄付金を贈った。



第13回

H19. 8/5

「夢と希望をメロディーに乗せて  
～こども音楽祭」

福岡市・都久志会館で開催。ハンデを乗り越えて夢と希望を忘れないで頑張ろうというテーマのもと、こどもたちの合唱や居合道、太鼓演奏などで盛り上がった。また、こどもたち18人とアグネス・チャン理事はイベントに先立ち、福岡県西方沖地震で被害を受けた同市・玄界島を慰問した。



第14回

H20. 8/10

「地球を守るために  
『こども隊』出動」

福岡市・福岡明治安田生命ホールで開催。地球環境保護をテーマに「環境こどもサミット」を開き、林野庁から貸与が提案されている佐賀県内の国有林を「夢みるこども基金の森」とし、どのような使い方をするかなどアイデアを出し合ったり、「環境こども新聞」の発行を決めた。また、バナナの叩き売り口上や障害を持つこどもたちなどによる劇、手話ダンスなどで盛り上がった。サミットに先立ち、イベント前日にはこどもたちが佐賀県唐津市虹の松原で林業体験作業を行った。



第15回

H21. 8/2

「松林の中で環境音楽祭」

福岡市と佐賀県唐津市で開催。テーマは「地球環境保護」。イベント前日はNPO法人「グリーンバード福岡」と、福岡市内の公園などのゴミの清掃作業を行い、イベント当日は佐賀県林管理署の「林業教室」に参加後、唐津市の虹ノ松原国有林で松葉かき作業を体験。午後は虹ノ松原野外ステージで「松林の中で環境音楽祭」を開催。集まった約350人は、地元のこどもたちの太鼓などの演奏、基金のこどもたちの合唱、唐津くんちの「曳山ばやし」の披露、唐津市内の4高校の brass band 演奏などで盛り上がった。



## 県内第一の優秀な学校に成長

夢みる子ども基金の支援とバングラデシュを手をうなぐ会の協力で1999年に小学校をオープンして以来、2003年に中学校、2006年に高校と拡大しました。現在約1000名の生徒と36名の教員が在籍しています。わずか10年間でこの学校は、学業や課外活動などで優秀な成績

を修め、地域で高い評価を受けています。教育委員会主催の昨年の学力試験で合格率が100%を達成し、メヘルプール県内で第一の優秀な学校として認められ、入学希望者も殺到しています。私達は毎年現地訪問の時に、基金学校を訪問し、生徒や先生たちと交流を行っています。今年も同じ

ような機会が与えられ、13人の訪問団員は楽しいひと時を過ごしました。

8月21日午前8時30分

頃にも基金学校に到着。国旗掲揚、国歌斉唱によつて一日が始まりました。本来、ラマダン（イスラム教の断食）の時期で学校が休みだったが、私達のために学生や先生たちが特別に登校しました。感謝です。学校の授業をみたり、日本人とバングラ人の似顔絵描きの競争などがあつたりしました。昼前に高校に移動し、

高校1年生と意見交換をしました。学生たちから次々と質問があり、こちらが困るほどの状況でした。日本の学校の何年生の時に理系文系コースごとに分けるか、英語は科目として何年生の時に始まるか、何歳で学校に行くか、日本人は休みのときに何をするか、何時に学校が始まり何時に終わるか、学生はどんな職業を希望するかなどでした。バングラデシュでは成績の良い学生は医学や工学を希望しますが、日本はどちらですか。本日に高校生らしい質問でした。最後に一つの質問に困りました。ジャパンという国名はどこからどう

やつていつできたかという質問でした。少し戸惑いました。またバングラデシュの様々の国家的な問題の一つは人口増加率や人口密度です。日本の国家的な問題の一つをあげればそれは何ですか。「一言でこれです」と言えませんでした。一瞬考えさせられました。

午後から先生たちと交流をしました。話し合いの中に、学校のインフラや設備の問題が取り上げられました。生徒増加によつて教室が足りない、図書館、理科教室、トイレ、保健室、家庭科室などの要望もありました。また図書館の本や雑誌も少なく、現代社会に欠かせないコンピュータやインターネット環境整備、理科や化学関係の実験装置や材料などが必要です。一度に全ての問題の解決はできませんが、徐々に取り上げたいと思っています。基金学校はやつと軌道に乗り始めましたので、基金関係者にこれまでと同じようにご協力をお願い申し上げます。またこれまでのご協力に対して心から感謝いたします。



制服姿の夢みる子ども基金学校の子どもたち

日本側責任者

シフマン・モクレスル

### ◆ネパール歯科医療協力会◆

24次夏隊は2010年8月26日から9月2日まで12名の隊員で出かけました。特徴は学生隊員が7名参加したことです。九州歯科大学4名の学生は学校歯科保健のフッ素洗口プロジェクトを担当し、信州大学の3名の学生は主に母子保健プロジェクトの石鹸プロジェクトを担当しました。また、久しぶりに東京医科歯科大学の白田千代子隊員が参加し学校歯科保健のブラッシングの実践評価を担当しました。また、アミット・カナル先生が現地参加し全てのプロジェクトをプロモートしました。現在での各小学校でのフッ素洗口およびブラッシングの進捗状況調査は学生隊員と共に口腔保健専門家(OHW)8人のリーダーと共同で行いました。

このほか、ラトプール郡ヘルスオフィスのアンピカさんとの共同事業やUNFPAの飛田さんとのコラボレーションも順調に進みました。

現地の石鹸プロジェクトも苛性ソーダの容器の選択に問題がありましたが、現場で修正し質の高い石鹸がマザーボランティエグループの手で製造でき1個30ルピーで販売できました。利益は村の低栄養児の栄養剤の補給に使われます。

また今回は出発前の2010年8月22日に九州歯科大学に於いて歯科学士の為のフッ素洗口セミナーを開催しました。事前研修することにより途上国現場でのプロジェクトを円滑に進めることができました。

また、SWCに申請中であったアミット・カナル先生のNPO法人WELL BEING NEPAL が7月に正式に許可されました。

理事長 中村 修一

### ◆NPO法人 福岡・ネパール児童教育振興会◆

先般行われました、夢のイベント『共に生きる社会のために～命の現場をみつめて』の中で、私共の活動に対し10万円のご寄付を賜りました。毎年継続してご支援頂き、衷心より深く御礼申し上げます。

さて、学校に関する報告ですが、本年7月に現地ニルマルポカリ村を訪れ、現状を確認して参りました。本年度のSLC試験の結果は、14名の卒業生のうち、13名が受験し12名が見事に合格致しました。この学力の高さと文化、衛生の指導はこの学校に定着したように感じます。又、新任の校長は大変有能でキャリアもあり、行動力にも長けていて期待以上の活躍をしています。20人の先生たちを上手に束ねて学生数を287名から324名に増員しました。学校施設を大きな費用を掛けずに塗装して見栄えの良い教室に創りあげ、カリキュラムもパソコンや科学の高級教育を入れて、卒業後、学生が直ぐに職に就けるように取り組んでいます。

毎年のようにネパールの教育法が変化する環境で、それまでの計画は気泡と消え、相変わらず資金困難な状況は続いています。PTAや学校運営委員会、村の有識者による会議を基本とし、それに行動を伴わせて実現させています。日頃から懸命に努力していることを窺わせます。それこそ、彼らに望むことでした。我々はこの結果に大いに満足しています。

コーヒー栽培についても2009年の収穫は100\*以上の農家が9軒、50\*以上の農家が19軒ありました。ニルマルポカリ村全体の収穫量が約5\*で、まだまだ少量ですが、やる気のあるコーヒー農家が育っていることは間違いありません。昨年ニルマルポカリ村から輸入されたコーヒー豆の分析結果は大変グレードの高い物だったそうです。耳心地よいニュースが入り、今年もニルマルポカリ村で収穫したコーヒーを日本の支援者に愛飲していただき、ご支援の返礼となる気配に、問題山積みではありますが、ホッと肩をなでおろしております。改めて支援活動を継続することの意義深さを確信したところであります。

最後に貴基金の益々のご発展を祈念致しております。

理事長 篠隈 光彦



## 常任理事に江口伸幸氏

## 大学生と高校生が実行委員に

夢みるども基金の平成22年度の定期理事会が5月20日、福岡県歯科医師会館(福岡市中央区)で開かれました。

議事に先立ち、議長を務めた中村直理事長代行が基金は16年目に入つたが、河原英雄・元日本顎咬合学会理事長らによる基金への妨害に加え、日本歯科医師会と日本財団による新しいボランティア組織の立ち上げや日本通運の業務変更による基金への支援打ち切りなど、厳しい状況になっている。一番の痛手はやはり河原元理事長らによる妨害で、彼らが騒動を起してから5年半、基金が民事訴訟を起こしてから3年半になる。裁判は当初の見通しより少し時間がかかっているが、勝訴判決を勝ち取り反転攻勢に出たいと思う。一方で、毎年



今後の運営について話し合う理事会。左が江口常任理事

全国のこどもたちから寄せられる『わたしのかなえない夢』の作文・絵の応募者は、この数年3000〜4000人で、基金の活動が社会的に浸透し、こどもたちがのキャンペーンを楽みしていることを物語っている。また、OB・OG会による『環境・こども新聞』は好評で、新規会員獲得の力にもなっているようだ。」と挨拶しました。

議事は人事案件から始まりまし

た。常任理事の新任に江口伸幸氏(公益財団法人新聞通信調査会理事・元時事通信社常務取締役総務局長、再任に八尋晋策氏(元読売新聞西部本社論説委員・経済部長、顧問の再任に田中儀夫氏(元読売新聞西部本社福岡総局長、実行委員の新任に岡部憲和君・夢みるども基金OB・OG会代表、九州大学21世紀プログラム学部1年、堀江健一郎君・夢みるども基金OB・OG会代表、福岡県立城南高校1年、原田容良氏(企画会社社長、テレビ局ディレクター)、再任に八尋晋策氏(前記)が提案され、全承認されました。

その後、古市悟事務局長(元スポーツ報知西部本社取締役編集部長)が平成21年度の活動報告及び補綴金属回収報告を行いました。平成21年度に回収した金属は299件、総重量は789.9gで、前年に比べ総重量は減ったものの、金属相場が上がったために金額にして100万円ほど上回ったとの補足説明もありました。

議事の第2部では、吉田雅俊顧問税理士が収支報告書と貸借対照表に基づいて平成21年度の会計決算について説明をし、木村友則監事が「監査の結果、適正である」と報告をしました。

続いて、古市事務局長より平成22年度の事業計画について、吉田税理士より同予算案についてそれぞれ説明がありました。従来は日本通運株に支援していたいた金属回収やメール便などの通信費・運賃を、今後は基金で負担するようにするなど経費が増大するために、基本金を取り崩して予算に繰り入れることが提案され、予算案と共に承認されました。

基金が毎年寄付を続けている3団体の助成金については例年通りで、バングラデシュの「夢みるども基金学校」に50万円、ネパール歯科医療協力会に30万円、福岡・ネパール児童教育振興会に10万円を贈ることで承認されました。

夏のイベントについては古市事務局長より説明がありました。特に、2年前のことも会議で決まり、今年のイベント初日によいよオープンすることになった「夢みるども基金の森」については、予算面や安全面で様々な意見が出ました。その結果、50万円を上限に遊歩道などの整備を行うことに決まりました。2日目のイベント内容については、今後実行委員スタッフ会議を開き検討していくことになりました。

続いて、河原元理事長ら3人を相手取った民事訴訟の経過報告、日本通運株の基金の協力辞退について、(日本歯科医師会と日本財団による新しいボランティア組織)TOOTH FAIRYについて、古市事務局長より話がありました。

## 基金の森の調印式

夢みるども基金が国有林を借りて佐賀県・春振山系に開設する「夢みるども基金の森」の協定書の調印式が平成22年6月30日佐賀市の佐賀森林管理署で行われた。

基金の森は佐賀市三瀬村の吉野山国有林の一画約56ha、三瀬トンネルの佐賀側から右側へ林道を約75m登った所、標高600〜800mでアカガシ、シデ、クスなどの50〜60年生の天然の広葉樹林。

調印式には基金側が八尋晋策常任理事、古市悟同・事務局長ら、佐賀森林管理署からは大倉孝行署長ら計20人が出席。八尋氏が「自然を知らない都会育ちのこどもたちの夢が自分たちの森に結実した。自然の生態系を守り、自然に対する造詣が深まり、生きていくことの意味を知ることができる。」と挨拶。大倉署長も「幼い頃に森に接することは大切な意義がある。森林の中で生きていく力を蓄える学習活動に役立って

した。今後の基金の運営については、こどもたちと厳しい状況ではあるが、こいつらこそ会員獲得のため積極的に動いていく」と誓い合いました。



「夢みるども基金の森」協定調印式で協定書の交換をする大倉署長(左)と八尋常任理事

## 裁判の経過報告

夢みるども基金に対して妨害を続けて来た河原英雄・元日本顎咬合学会理事長ら3人を相手取り、基金が総額3884万円余の損害賠償請求と謝罪広告の掲載を求めて福岡地裁に提訴している民事訴訟は9月10日までに計21回の口頭弁論がありました。

河原元理事長らが妨害を始めてから間もなく6年、民事訴訟を起こしてからでも3年半が過ぎました。裁判は大詰めを迎えており、今年中には結審すると見られています。審理の内容は裁判が終わってから詳しく報告します。

## 人事

【常任理事 新任】  
江口 伸幸

(公益財団法人新聞通信調査会理事・元時事通信社常務取締役総務局長)

【常任理事 再任】  
八尋 晋策

(元読売新聞西部本社論説委員・経済部長)

【顧問 再任】  
田中 儀夫

(元読売新聞西部本社福岡総局長)

【実行委員 新任】  
岡部 憲和

(夢みるども基金OB・OG会代表、九州大学21世紀プログラム学部1年)

堀江 健一郎

(夢みるども基金OB・OG会代表、福岡県立城南高校1年)

原田 容良

(企画会社社長、テレビ局ディレクター)

【実行委員 再任】  
八尋 晋策

(前記)

※敬称略

## ◆定期理事会議事◆

- ①役員改選
- ②実行委員委嘱
- ③規約変更
- ④報告
  - ▶平成21年度活動報告
  - ▶平成21年度補綴金属回収報告
- ⑤平成21年度会計決算
- ⑥平成21年度監査報告
- ⑦平成22年度事業計画
- ⑧平成22年度予算案
- ⑨各種団体への寄付・助成金
- ⑩「夢みるども基金の森」について
- ⑪夏のイベントについて
- ⑫その他
  - ▶裁判の経過報告
  - ▶日本通運株の基金への協力について
  - ▶TOOTH FAIRYについて
  - ▶今後の基金運営について
  - ▶作文・絵コンクールについて
- ⑬江口伸幸常任理事の挨拶
- ⑭長尾伶美理事の挨拶(大学院進学)



# こどもたちの 手形とメッセージ

第16回イベントに参加した15名のこどもたちは、自分たちの手形と夢をしたためのメッセージを横断幕にしました。イベントに参加してくださった方々からのサインもいただきました。この横断幕は「こども宣言」と共に菅首相などに届ける予定です。



こどもたちと横断幕を作る長尾理事(左)



手形とメッセージの横断幕

## 「夢みるこども基金と私」

長尾 怜美(歯科医・九州歯科大学院1年)

今春、一年間の歯科臨床研修を終え、ようやく歯科医師という人生のスタート地点に立った。

一人の社会的責任を負う立場として医療現場に臨む中、今まで学んできた理論では解決できない様々な問題に直面する毎日だ。その度に、診療の判断基準や患者さんへの対処方法に悩み、迷い、それでも最善の答えを見つけ出そうと試行錯誤している。その中で、「この職が自分に向いているのだろうか」と弱音を吐き挫折しそうな時もある。そんな私をいつも支え原点に戻してくれる存在が「夢みるこども基金」なのだ。

基金との出会いは今から15年前の阪神・淡路大震災の直後だった。当時小4だった私はテレビで継ぎされるボランティアの方の心温まる救助活動に感動し、「人を笑顔にして将来人の役にたてる大人になりたい」と、基金主催の「私の夢」作文コンクール

に応募した。この作文が第1回こども基金の作文の部の最優秀賞になり、イベントが実現した。被災地のこども達と交流を持ちホームステイをして楽しい経験させてもらった。その時の友は今でも大切な存在である。当時、自分が託した夢が現実となった事が幼心にも嬉しく、後にそれが歯科医師の方々の善意で集められた金属冠リサイクルでの収益金によるものだとは知らされた時、その意外な結び付きに驚いた。人はこのように見えない気付かない何かの力でも支えられているのかもしれない、と実感した。この時から私の中で歯科医師という職業が誇らしい憧れの存在となり、本当に叶えたい夢へと大きく変化していった。

抜く原動力で持ち続ける事が大事。苦しい時こそ視野を外に向け良き出会いを求めるべき」との教えを学んだ。この「夢・継続・出会い」の3つの要素は今

の存在が今の自分の光であり、その背中を追っていきたくて心から思う。

後の私の道標である。これまで基金を通してゲスト・スタッフなど多くの「出会い」があり、震災の友達との友情や基金活動の「継続」にも大きな意義を感じている。そして常に「夢」や目標を持ちながら、私の尊敬する諸先生方は日々仕事に精進されている。どんな些細な事も貪欲に精力的に治療に取り組んでいる姿は、私たち若手研修医からみても素晴らしい輝いて見える。学生時代、今や歯科の水河期だと散々言われ続けてきた世代だが、実際臨床の現場に出てみると、仕事にプライドを持ち楽しんで診療されている先生が多いことを実感した。自分の利益その前に、患者さんの口腔内や健康を含めた人生サポート、そして地域に貢献する姿にも心打たれた。診察室には常に方言混じりの明るい会話とお年寄りや子ども達の笑い声がある。そういう先生方

の存在が今の自分の光であり、その背中を追っていきたくて心から思う。

「人を笑顔にし、人の役に立ちたい」「幼き日、マイクに向かい大きな声で作文を読んだ姿を今一度思い出した。私を歯科の世界に導き育てくれた基金への恩返しは、まずは一人前の歯科医師になる事だと思っている。毎日の診療で失敗もある、自分の不出来さに泣きたくなる事も多々ある。でも冷や汗を掻きつつも患者さんと真剣に誠実に向き合っていく事で、この仕事に自信が持てる日が来ると信じている。そしていつかは、夢をみるこども達に今の自分の姿を誇れる大人でありたい。夢を諦めかけている子供には背中を後押してやる大人になりたい。

四月からは小児歯科の道を深めるため大学院進学を決めた。「こども達に夢を与える人間に」これが私の新たな夢の原点だ。

※この原稿は「ユメネット会員情報誌「Together 10月号」に掲載されました



# 夢みるこどもキャンペーン・協力歯科医院申込FAX用紙

右のキリトリ線から切り取り、FAXにてご送信くださいますようお願い致します。

住 所	郵便番号	〒
	都道府県	
	市区郡町名番地	
	マンション名 ビル名	
医 院 名		(ふりがな)
院 長 名		(ふりがな)
TEL	(       )	—
FAX	(       )	—
*通信欄(ご意見・要望などありましたら記入ください)		

キリトリ線

\*お申込みをいただきましたら、事務局から待合室に貼るポスター、回収箱などをお送り致します。

\*定期回収は毎年秋ですが、補綴金属は随時受け付けています。少量でも結構です。

\*金属をお送りいただく際は、集荷フリーダイヤル(ゆうパック)【0800-0800-111】にお電話いただき“基金着払い”でお送り下さい。

\*登録費、年会費はございません。

「基金の流れ」は背表紙に掲載しております。

「夢みるこどもキャンペーン」の活動については下記ホームページをご覧ください。

URL: <http://www.yumemirukodomo.jp>



お申し込みFAX番号

**FAX092-751-0249**

※右のキリトリ線から切り取りFAXをお流し下さい。



## 基金の流れ



「金属冠」は換金され  
こどもたちの夢の支援に役立てられます。

換金された  
リサイクル益金  
が役に立てられます。



毎年「こども会議」  
で決められたこども  
たちの夢の実現

基金学校の設立  
や援助

盲導犬の贈呈

筋ジストロフィー  
の方の支援など

## 10月と11月は金属冠定期回収月間です

### ●ご入会について

協力歯科医院のお申し込みは随時受け付けています。15頁の申込用紙を切り取り、FAXにて送信してください。登録費、年会費はございません。ご入会いただく、直ちにポスター、木箱、内ボトル2個をお送りします。金属冠はこの内ボトルに貯め、ボトルごと事務局までお送りください。

### ●金属冠は随時受付中

金属冠の回収は年間を通して受け付けていますが、特に10月と11月を強化月間としています。少量しかたまっていなくても構いませんので、集荷フリーダイヤル(☎0800-0800-111)へ電話し、「基金着払い」でお送りください。直接基金事務局(☎092-751-0021)へ電話されても結構です。なお、研磨バー、バンド、矯正のワイヤー、入れ歯や義歯(貴金属を含まないもの)などは医療廃棄物で、こちらでは処分しかねますのでご了承ください。

金属冠集荷フリーダイヤル

ゆうパック☎0800-0800-111

## 業者に委託しての回収はしていません

夢みるこども基金は金属冠の回収を正確、クリアにするために、金属冠は基金に直接送っていただいています。これまで、一部の金属業者が「基金と提携している」「業者から基金に送る」などとウソをついて、金属冠を持ち去るケースがありましたのでご注意ください。

また、基金は設立時から国税局の指導を受けながら業務を進めており、協力歯科医院に対しては毎年度「基金だより」と一緒に決算書などを送付しています。金属冠を送っていただいた歯科医院等については、その都度受領証と感謝状を送り、基金備え付けの帳簿に受け入れ年月日、重量などを細かく記録しています。課税関係などで問題が生じた時にも対応できるようになっていますのでご連絡ください。

## 編集後記

## 森は基金のシンボル

佐賀県・脊振山系の  
国有林の一面に「夢みる  
こども基金の森」がいつい  
にできました。こどもたちの  
2年越しの夢が実現し  
ました。

また。

スコップを手に基金の  
森の看板を立てた15人  
のこどもたちはさつそく  
中に入りました。都会育  
ちで、森に入るのが初め  
てのこどもたちも多かつた  
ようでした。シイ、カシ、タ  
ブ、モミジ、ヤマザクラな  
どの広葉樹が茂り、人の  
手が全く入っていない天  
然林です。木々のざわめ  
き、鳥の鳴き声、小川の  
せせらぎ…。森全体が静  
かなオーケストラの舞台  
になったようでした。こど  
もたちも目を輝かせてい  
ました。

基金が毎年募集して  
いる「私のかなえたい夢」  
の作文・絵には全国の  
小、中学生3000人、  
4000人が様々な  
「夢」を寄せています。そ  
れを基金にイベントを実施  
しています。自分たちの  
夢が一つの形になったの  
が基金の森です。こども  
たちは夢をみることのす  
ばらしさとそれが実現し  
たことの喜びを実感した  
ようです。

皆様の協力を受け  
る限り、このキャンペーン  
は続きます。基金OB・  
OG会のこどもたちは  
着実に成長して各方面  
で活躍するようになりま  
した。基金の運営やイベ  
ントの開催などにもどし  
どし参加してもらい「こ  
どもたちの手によるこど  
もたちのための基金」にな  
るのが最終的な目標で  
す。引き続き「夢の応援  
団」として歯科医師の先  
生方のご支援をお願い  
申し上げます。

常任理事・事務局長  
古市 悟

2年前の「こども会  
議」で、こどもたちは悪  
化する地球環境に危機  
感を抱き「自分たちがで  
きることから環境保護に  
取り組もう」と、環境こ  
ども新聞の発行と森づ  
くりを決めました。こど  
もたち手作りのこども新  
聞はすでに7号を出し

ました。  
5.6の国有林を提供  
下さった林野庁とも協力  
しながら森を守り、基金  
以外のこどもたちにも  
「自然教室」の開催など  
で森を利用してもらう心  
算です。これからこども

ちの交流や仲間の輪が  
広がります。  
基金は今年16年目に  
入りました。多くの方々  
のご協力のおかげです。森  
を歩きながら特に協力  
歯科医院の先生方にも  
ぜひ現地にきて頂きたい  
と思いました。毎年のイ  
ベントの状況は紙面で報  
告するだけですが、でき  
たらイベントにも参加し  
てもらえるようなことを  
考えないといけないと思  
っています。



発行 夢みるこども基金事務局

URL: <http://www.yumemirukodomo.jp>

〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6-2F

☎092-751-0021 FAX 092-751-0249

E-mail: [jimukyoku@yumemirukodomo.jp](mailto:jimukyoku@yumemirukodomo.jp)